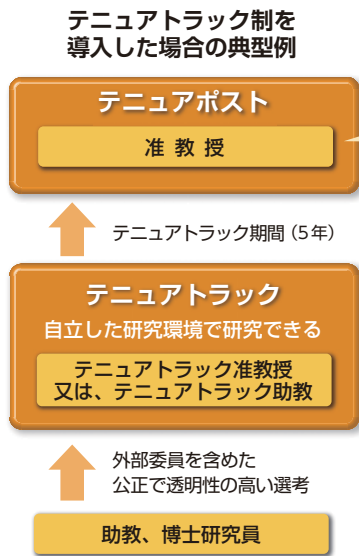


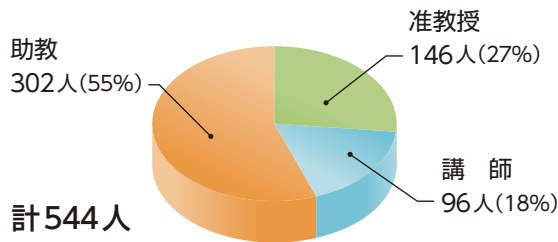
●大学における教員のキャリアパスのイメージ図



テニュアポストに移行した後、研究主宰者 (PI) としての環境が維持されていることが必要です。(教授への昇任は必須条件ではありません)

●採用したテニュアトラック教員の職位別分類

Q：テニュアトラック教員は、どのようなポストで採用されていますか？



(平成18年度～平成22年度採択機関)
旧科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」におけるJST集計データ (平成23年3月末)

テニュアトラック制のメリットは？

●大学・研究機関にとってのメリット(例)

- ・優秀な若手研究者が採用され、充実した自立的な研究環境と相まって優れた研究成果が上がっています。

例：多くの受賞実績

- ・科学技術分野の文部科学大臣表彰
- ・米国生理学会 Neural Control & Autonomic Regulation Section (NCAR) New Investigator Award
- ・材料科学に関する国際会議 (IUMRS-ICAM) Young Scientist Award など多数

- ・一般の若手教員に比べ科学研究費補助金の採択率が高くなっています。

	テニュアトラック教員	学内の一般教員
若手研究 (A・B、39歳以下) の採択率	73%	36.3%

※旧科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」平成20年度採択9機関における、平成20年度～21年度の科学研究費補助金の獲得状況から算出

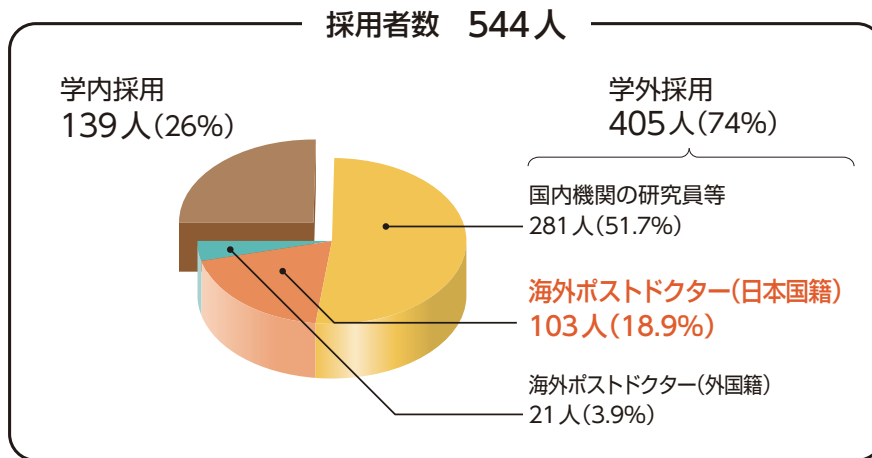
- ・大学にとっては、
 - ◇ 優秀な若手研究者を採用できる
 - ◇ 外部資金の獲得が増えることにより、間接経費等の収入が増えた …等の効果が出ています。

●テニュアトラック教員にとってのメリット(例)

- ・優れた実績を残せば安定的な職が得られる
- ・十分な研究費が配分されて、自立した研究環境の中で自分の研究に取り組める
- ・研究以外の業務が軽減されて十分な研究時間が確保できる

● 海外にいる日本人若手研究者が国内で活躍するポストの一つにもなっています

・ テニュアトラック教員として採用される前の所属機関の内訳



(平成18年度～平成22年度採択機関)
旧科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」におけるJST集計データ(平成23年3月末)

東京農工大学から声をいただきました。(平成18～22年度 全国シンポジウム主催大学)

テニュアトラック制を導入したメリットは、良い人材を採用できたことに尽きると思います。

本学に採用したテニュアトラック教員へのインタビューなどから、チャレンジングで優秀な若手研究者は、自立的な研究環境に対して強い魅力を持っていることが分かりました。

研究主宰者(Principal Investigator ; PI)として、研究資金や研究スペースの配分、管理運営業務の軽減というアドバンテージを受けられるテニュアトラック制は、これからも優秀な若手研究者を集めるために有効に働くと感じています。

また、優秀な人材を獲得できたことの波及効果として、より多くの外部資金の獲得ができるようになりました。

